



環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム 2018)

大和ハウスグループでは、環境長期ビジョンの実現に向け、中期経営計画の対象期間に合わせて、およそ3ヵ年ごとに具体的な目標と計画を「エンドレス グリーン プログラム (EGP)」として策定し、活動を推進しています。

「エンドレス グリーン プログラム 2018」(2016～2018年度)では、全グループ会社を対象に、「環境と企業収益の両立」に向けて、「ライフサイクル思考にもとづくグループ・グローバル一体での環境経営の推進」をコンセプトに環境への取り組みを加速させます。

環境行動計画のあゆみ



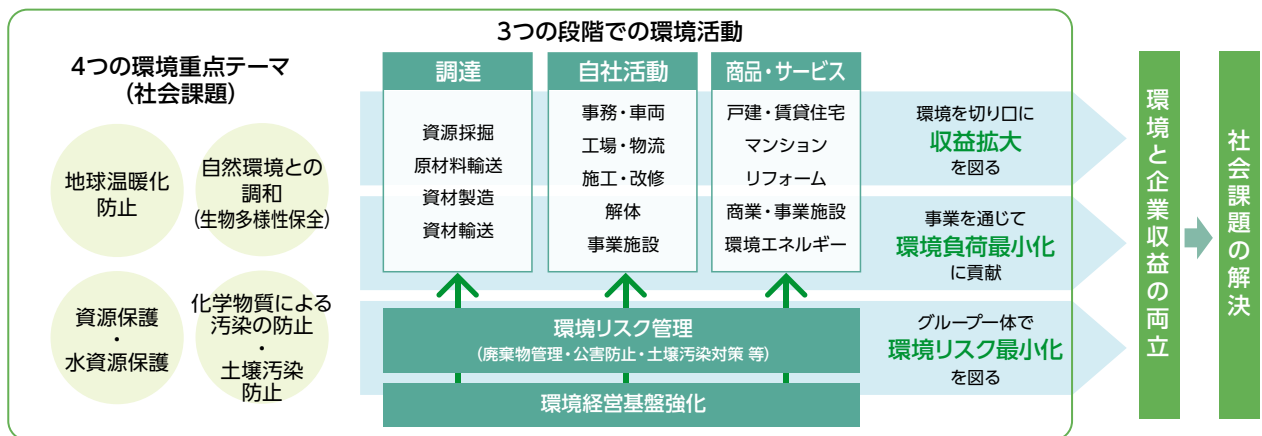
当社グループでは、ステークホルダーの関心度及び事業との関連性が高い「4つの環境重点テーマ(社会課題)」を特定し、これらに対して「調達」、「自社活動」、「商品・サービス」の3つの段階において取り組みを進めます。

「調達」では、環境負荷の低い原材料を調達することを目的に、取引先との環境に関する方針の共有や改善活動の協働実施などを進めていきます。

また「自社活動」では、事業活動プロセスの各段階において施設・設備インフラの効率化と業務プロセスの革新により、省資源・省エネルギーで生産性の高いものづくりを推進し、環境負荷低減を図ります。

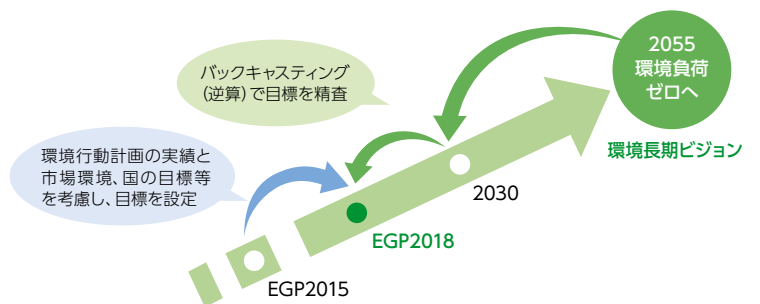
さらに「商品・サービス」では、環境に配慮した住宅・建築などの開発・普及を通じて、特に地球温暖化防止と生物多様性保全に向けた取り組みを強化します。

環境行動計画の全体像



バックカスティングによる目標設定

上記4つの重点テーマにおける目標設定にあたっては、大和ハウス工業の創業100周年にあたる2055年に目指すべき姿として策定した「環境長期ビジョン」からバックカスティング(逆算)するとともに、2025～2030年にマイルストーンを置き、3年後の到達レベルを設定しています。



マテリアリティ(重要課題)の特定

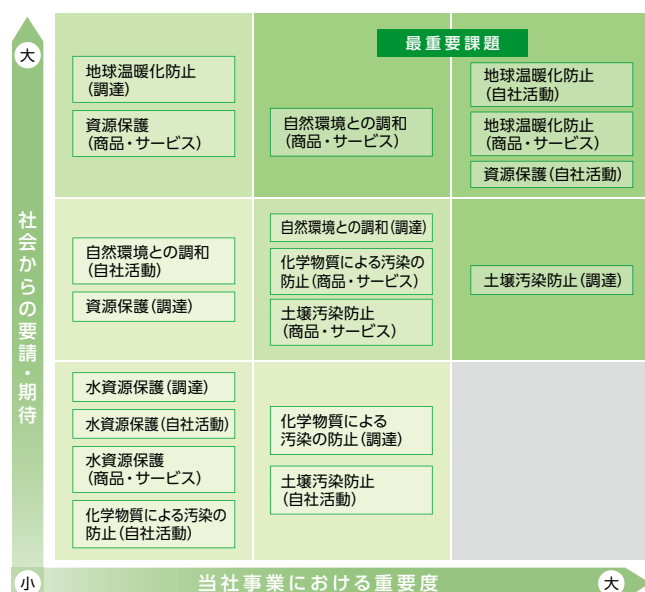
「エンドレス グリーン プログラム 2018」の策定にあたり、改めて当社グループの環境への取り組みについて事業における重要度と社会からの要請や期待を考慮して重要課題を抽出、有識者による妥当性の確認を経て、マテリアリティを特定しました。

また、特定した重要課題及びその他の課題について、当社の取り組みレベルと照らし合わせ、環境行動計画の目標レベル・基本方針に反映しました。

マテリアリティ特定プロセス



マテリアリティマップ



関連ページ ▶ P119 有識者や投資家との対話

※マテリアリティ特定の詳細は、当社グループWebサイトをご覧ください。

大和ハウス マテリアリティ で検索

「エンドレス グリーン プログラム 2018」の基本方針

環境テーマ	段階	対応方針	基本方針
地球温暖化防止	調達	着手	調達先における省エネ支援及び省エネ建材認定制度の構築
	自社活動	継続改善	新築施設のスマート化 既存施設の省エネ運用改善及び計画的な設備更新の継続
	商品・サービス	重点改善	エネルギーゼロの住宅・建築・街づくりの推進 再生可能エネルギー(風・太陽・水・バイオマス)による発電事業の拡大
自然環境との調和 (生物多様性保全)	調達	継続改善	持続可能な木材調達の推進
	自社活動	維持管理	自社・グループ施設における環境緑化の推進
	商品・サービス	重点改善	開発・街づくりにおける緑の保全・創出の推進
資源保護 水資源保護	調達	着手	主要建材における資源・水リスクの把握
	自社活動	継続改善(資) 維持管理(水)	建設廃棄物における3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動の推進 節水器具の採用推進
	商品・サービス	継続改善(資) 維持管理(水)	資源循環型商品(高耐久・長寿命・省資源)の普及および再生建材の採用推進 節水器具の採用推進
化学物質による 汚染の防止 土壌汚染防止	調達	維持管理(化) 継続改善(土)	調達建材における化学物質管理の強化 土地購入時の土壌汚染リスク管理の強化
	自社活動	維持管理	生産段階におけるPRTR対象化学物質排出・移動量、VOC排出量の削減
	商品・サービス	継続改善	居住系施設における室内空気質のさらなる改善 土壌汚染対応ソリューションの拡充
環境経営基盤強化、環境リスク管理			グループ・グローバルにおける環境パフォーマンスデータの信頼性向上 グループ体での環境法管理システムの構築・運用